

**平成 24 年度 薬剤支出と後発医薬品  
の使用と効果に関する調査分析報告**

**平成 26 年 2 月**

**IT 推進部データ分析推進グループ**

## 調査の概要

本調査分析は、対象となった 562 組合の調剤レセプト（電算処理分）をもとに、平成 24 年度の調剤医療費の動向と後発医薬品の普及状況、使用による効果・影響について調査したものです。

なお、本稿による統計数値は、全組合の集計ではなく、対象組合数が限定されていることや、24 年度と 23 年度の比較は便宜上、加入者数の調整等を行っていない単純比較のため、必ずしも組合全体を正確に反映したものでなく、若干、偏りが生じている可能性があることにご留意ください。

また、75 歳以上の加入者は原則、後期高齢者医療制度の適用対象者のため統計上存在しないはずですが、①診療年月日を診療年月の月末として計算しており、75 歳の誕生日を迎える月に誕生日前に診療を受けた場合に年齢が 75 歳となるため、75 歳以上に計上しているほか、②外国に住所を有する 75 歳以上の加入者についても 75 歳以上に計上しています。

### 562 組合の調剤レセプト（電子レセプト）データ等の概要

年度	平成 23 年度	平成 24 年度
加入者数	1,351 万 4,470 名	1,286 万 1,876 名
調剤（電子レセプト）	4,445 万 6,214 枚	4,569 万 1,832 枚
金額	3,630 億 5,457 万 1,400 円	3,680 億 2,478 万 650 円

## 【調査分析結果の概要】

### (1) 調剤医療費の伸び率

- 調剤医療費の対前年度伸び率は 1.37%となっており、伸び率の月次推移では 4 月が▲8.37%とマイナスの伸びが顕著のほか、10 月、3 月で伸び率が高くなっている。

### (2) 1 人当たり調剤医療費及び医療費 3 要素

- 平成 24 年度の 1 人当たり調剤医療費は、合計：28,614 円、本人：27,759 円、家族：29,577 円となっており、前年度に比べて、合計：6.16%、本人：5.72%、家族：8.32%-の増加となっている。
- 医療費 3 要素(受診率・1 回当たり調剤医療費・1 件当たり回数)では、1 回当たり調剤医療費、1 件当たり回数でマイナスの伸びとなっている。

### (3) 後発医薬品の普及状況

- 平成 24 年度の薬剤総使用量に占める後発医薬品の使用割合は 26.84%で、薬剤料に占める後発医薬品の金額割合は 10.14%となっている。
- 後発医薬品の 1 人当たり金額は平均 1,961 円で、①70-74 歳：8,390 円、②65-69 歳：6,126 円、③75 歳以上：5,126 円-の順に高く、高齢者で高い傾向にある
- 都道府県別に普及状況をみると、使用割合では、①沖縄県：39.15%、②鹿児島県：32.33%、③岩手県：31.66%-の順に高く、一方、使用割合が低いのは、①徳島県：21.14%、②秋田県：23.63%、③山梨県：23.66%-となっている。
- 金額割合では、①沖縄県：13.72%、②奈良県：13.60%、③岩手県：13.21%-の順に高く、一方、金額割合が低いのは、①徳島県：7.14%、②山梨県：8.26%、③高知県：8.40%-となっている

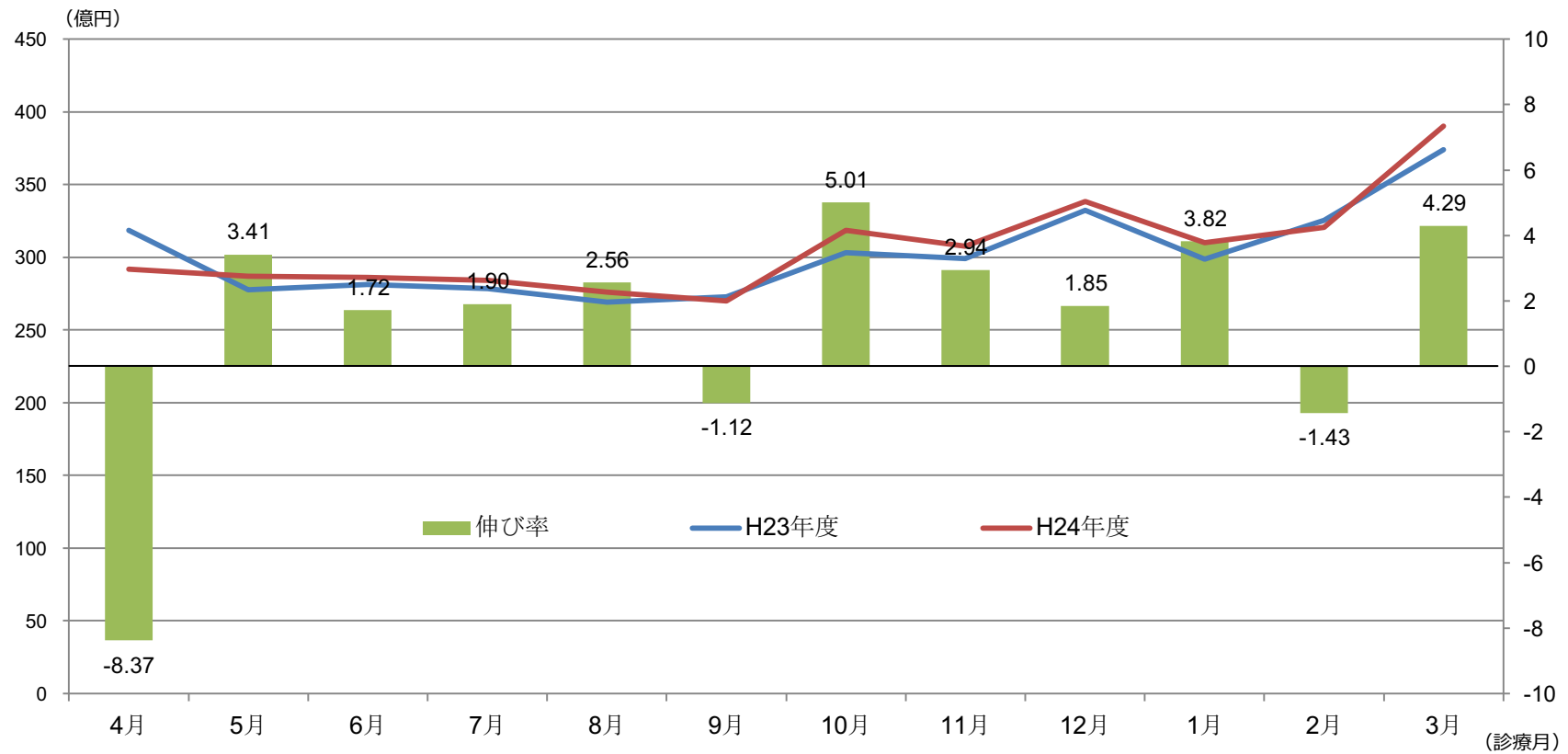
### (4) 薬効分類(2 桁)別にみた後発医薬品による代替効果

- 後発医薬品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えた場合、①アレルギー用薬、②循環器官用薬、③消化器官用薬-で削減効果額が大きい。

## <23-24 年度> 調剤医療費の伸び率と推移

- 562 組合の調剤医療費全体の対前年度比伸び率は 1.37%の増加となっている。
- 調剤医療費の月別推移をみると、4月の伸び率の低下が顕著となっている。10月:5.01%、3月:4.29%と伸びが高くなっていることがわかる。

《対前年度伸び率（全体）：1.37%》



## 1人当たり医療費及び医療費3要素（本人・家族計）

- 24年度の調剤医療費（合計）を1人当たり医療費及び医療費3要素に分解してみると、1人当たり調剤医療費：28,614円、受診率（1人当たり件数）：3.55、1回当たり調剤医療費：6,375円、1件当たり回数：1.26となっている。
- 伸び率では、1人当たり調剤医療費と受診率で高い伸びを示していることがわかる。

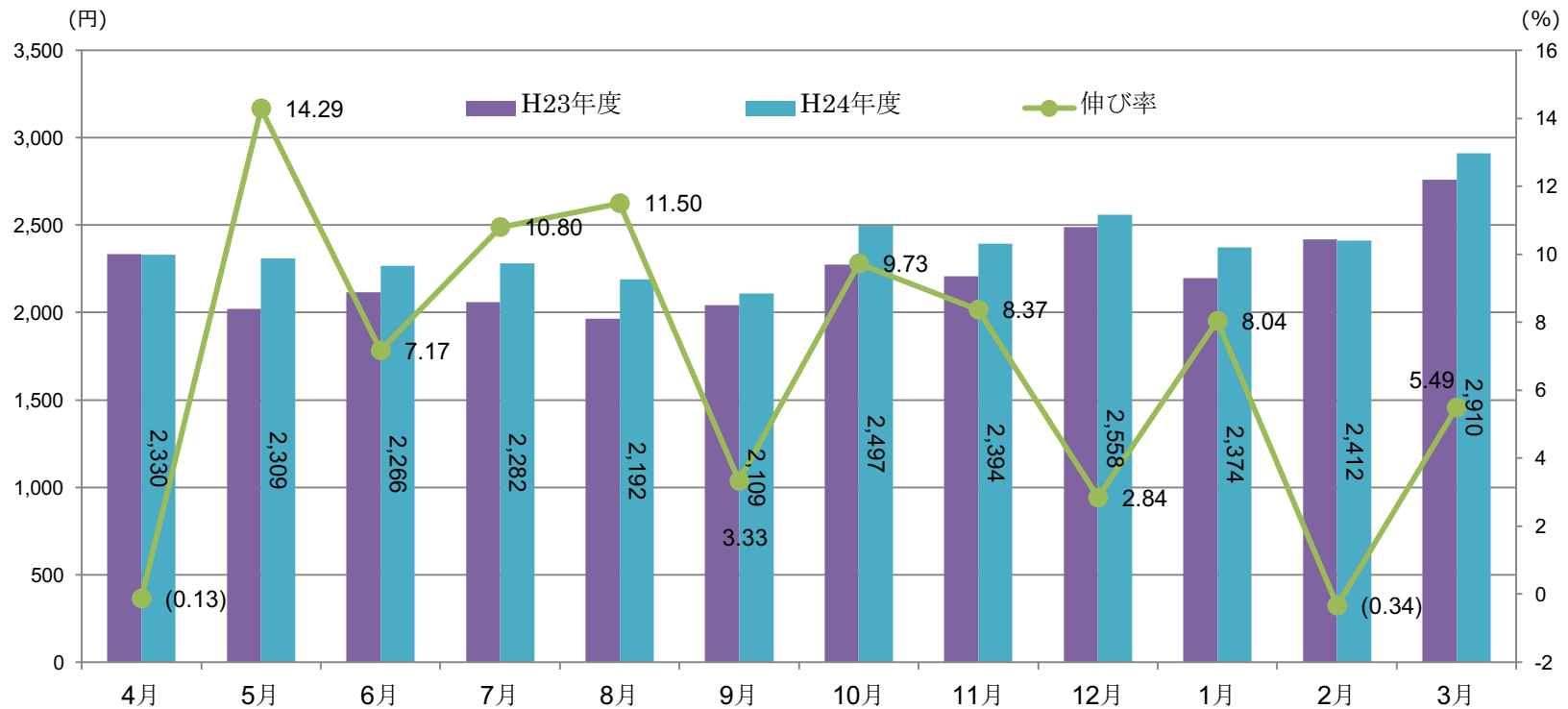
		1人当たり調剤医療費	受診率	1回当たり調剤医療費	1件当たり回数
合計	24年度	28,614円	3.55	6,375円	1.26
	23年度	26,863円	3.29	6,379円	1.28
本人	24年度	27,759円	3.03	7,640円	1.20
	23年度	26,276円	2.83	7,673円	1.21
家族	24年度	29,577円	4.14	5,427円	1.32
	23年度	27,377円	3.79	5,431円	1.33

### 【伸び率】

		1人当たり調剤医療費	受診率	1回当たり調剤医療費	1件当たり回数
合計		6.16%	7.90%	▲0.06%	▲1.56%
本人		5.72%	7.07%	▲0.43%	▲0.83%
家族		8.32%	9.23%	▲0.08%	▲0.75%

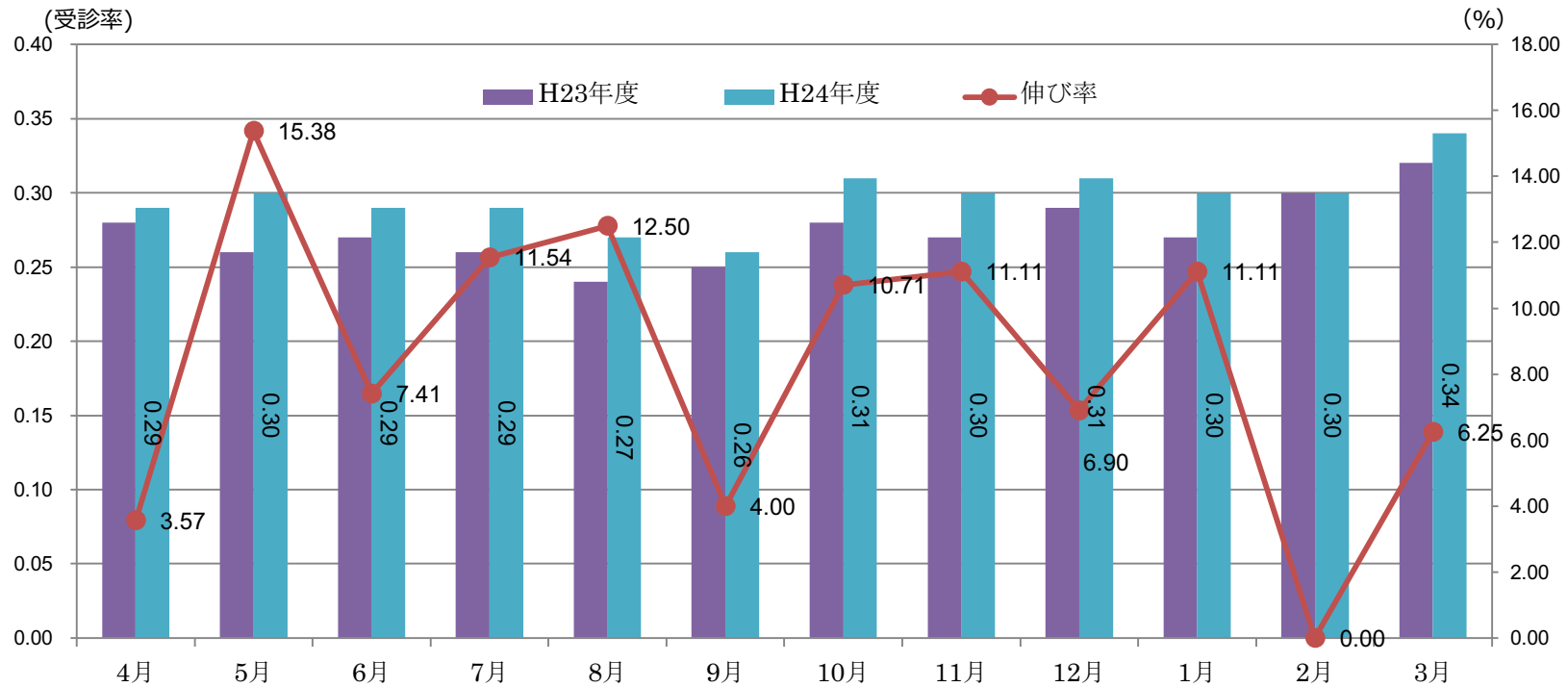
## 1人当たり調剤医療費と伸び率の推移

- 1人当たり調剤医療費について対前年同期比の伸び率の推移をみると、2月で▲0.34%、4月で▲0.13%のマイナスを示している以外は、どの月でもプラスの伸び率となっており、とくに、5月で14.29%と高い伸び率を示しており、次いで、8月：11.50%、7月：10.80%となっている。

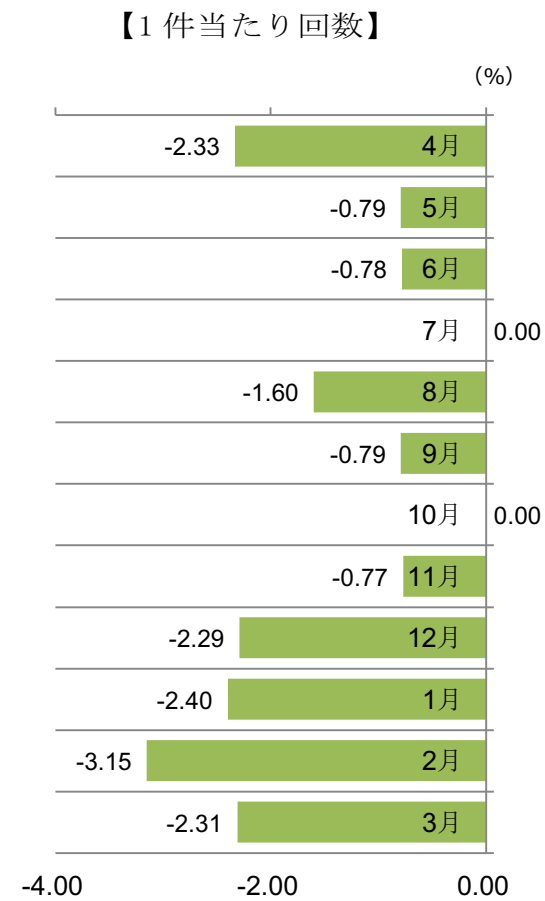
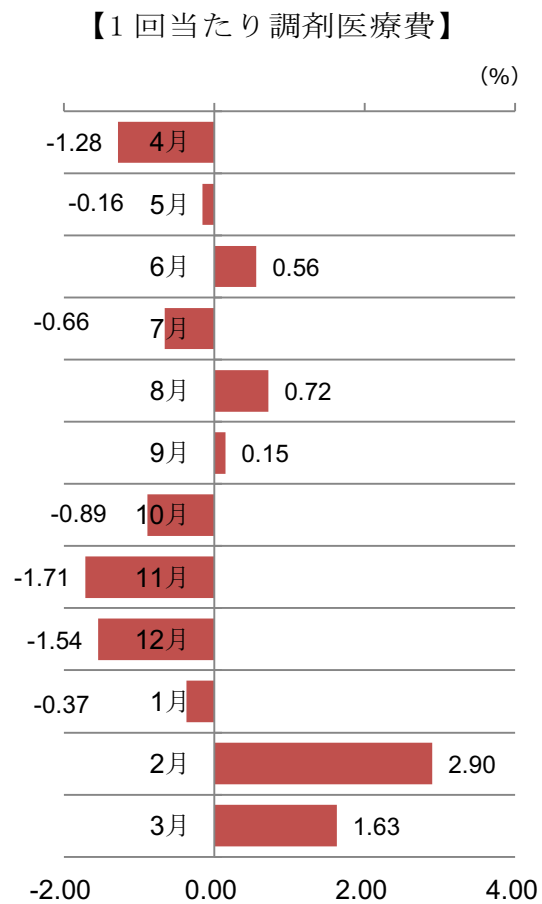
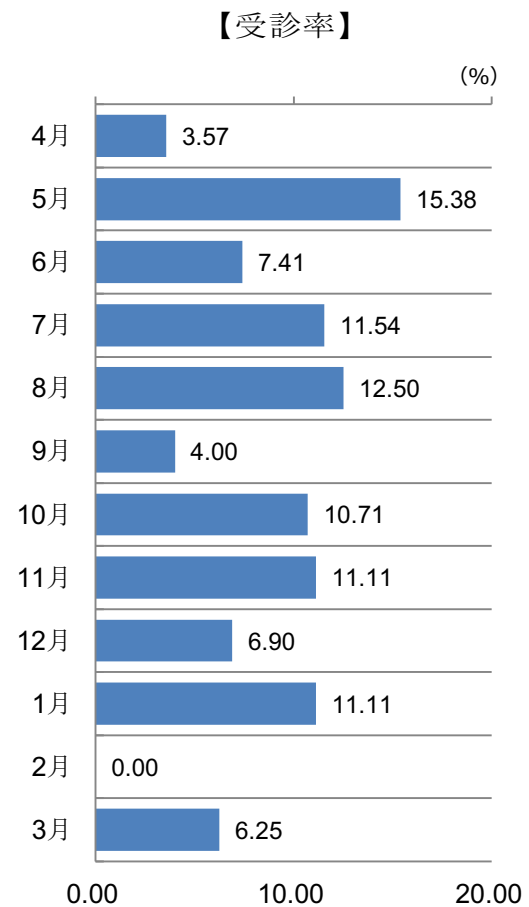


## 受診率の伸び率の推移

- 受診率（1人当たり件数）について対前年同期比の伸び率の推移をみると、2月で0.00%を示している以外は、どの月でもプラスの伸び率となっており、とくに、5月で15.38%と高い伸び率を示しており、次いで、8月：12.50%、7月：11.54%となっている。



参考：医療費3要素（合計）の対前年同期比伸び率

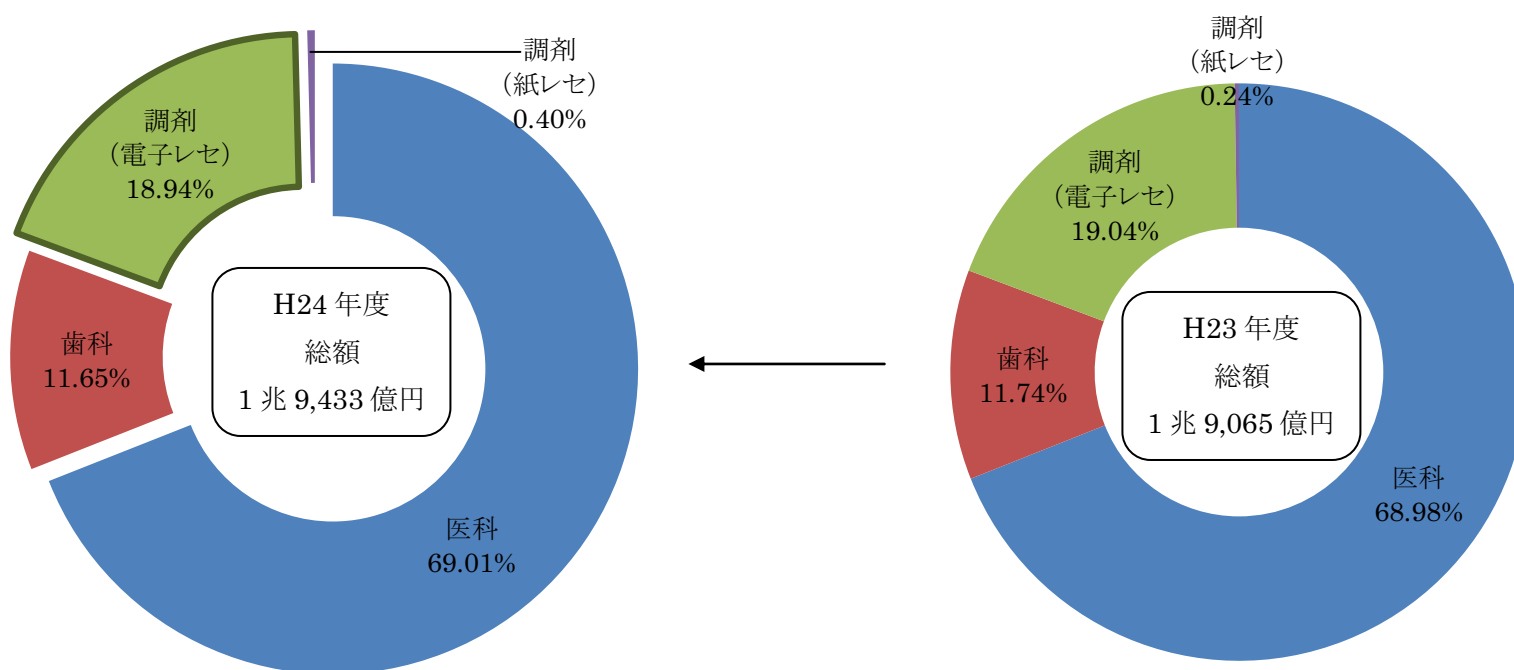




## 総医療費に占める調剤レセプトの割合（金額ベース）

- 総医療費に占める調剤レセプトの割合（金額ベース）は、電子レセプトで 18.94%、紙レセプトで 0.40%の合計 19.34%となっており、ほぼ前年度と同様（H23 年度 19.28%）となっている。

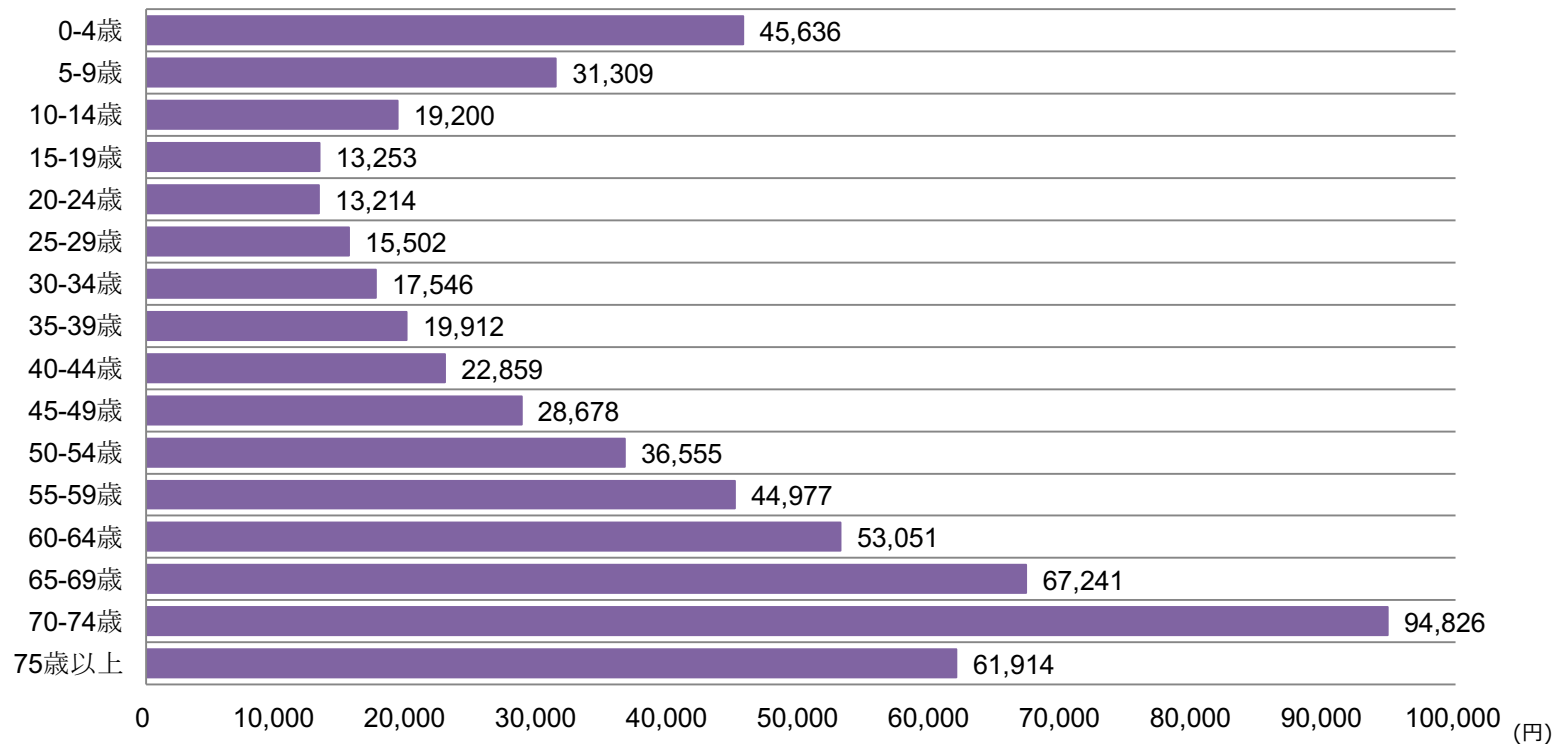
＜医療費総額に占める調剤レセプトの割合＞



## 年齢階層別 1 人当たり調剤医療費

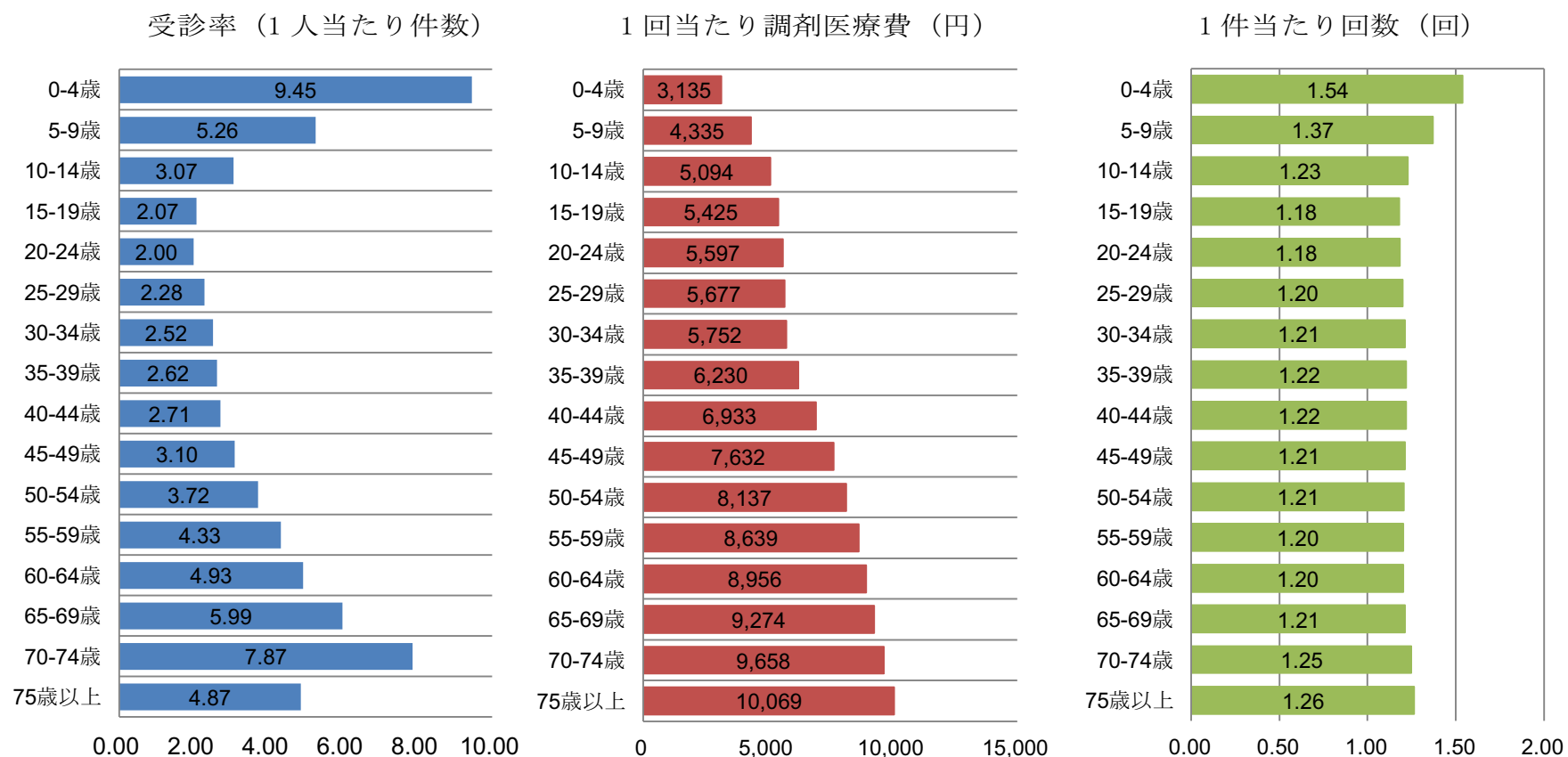
- 年齢階層別の 1 人当たり調剤医療費をみると、0-4 歳、5-9 歳で比較的高い数字を示しているほか、70-74 歳：94,826 円、65-69 歳：67,241 円、75 歳以上：61,914 円と、高齢者層で高くなっていることがわかる。

1 人当たり調剤医療費



## 年齢階層別調剤医療費の3要素

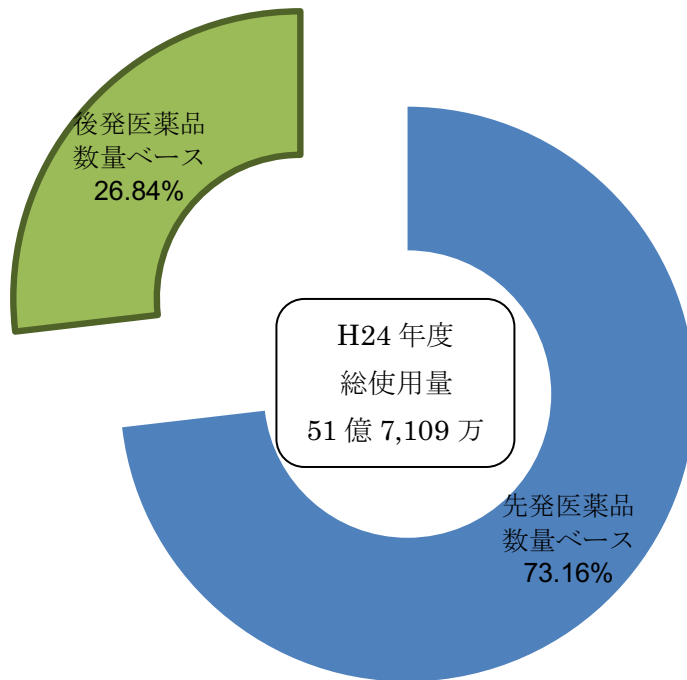
- 年齢階層別に調剤医療費の3要素をみると、受診率は0-4歳、70-74歳で高い。また、1回当たり調剤医療費は年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にある。1件当たり回数は乳幼児で若干高いものの、年齢階層間でそれほど大きな差はみられない。



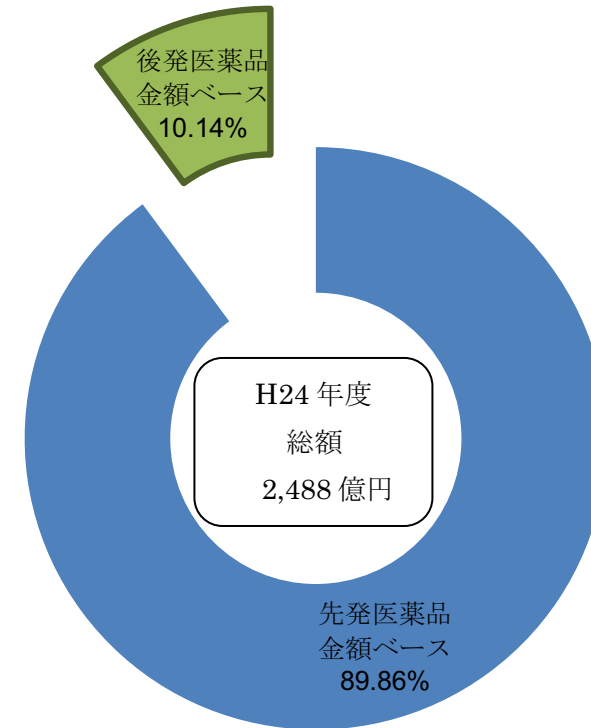
## 後発医薬品の普及状況

- 後発医薬品の普及状況を数量ベース、金額ベース別にみると、数量ベースでは、先発医薬品：73.16%に対して、後発医薬品は26.84%となっている。また金額ベースでは、先発医薬品が89.86%に対して、後発医薬品は10.14%となっている。

薬剤使用量に占める後発医薬品の割合（数量ベース）

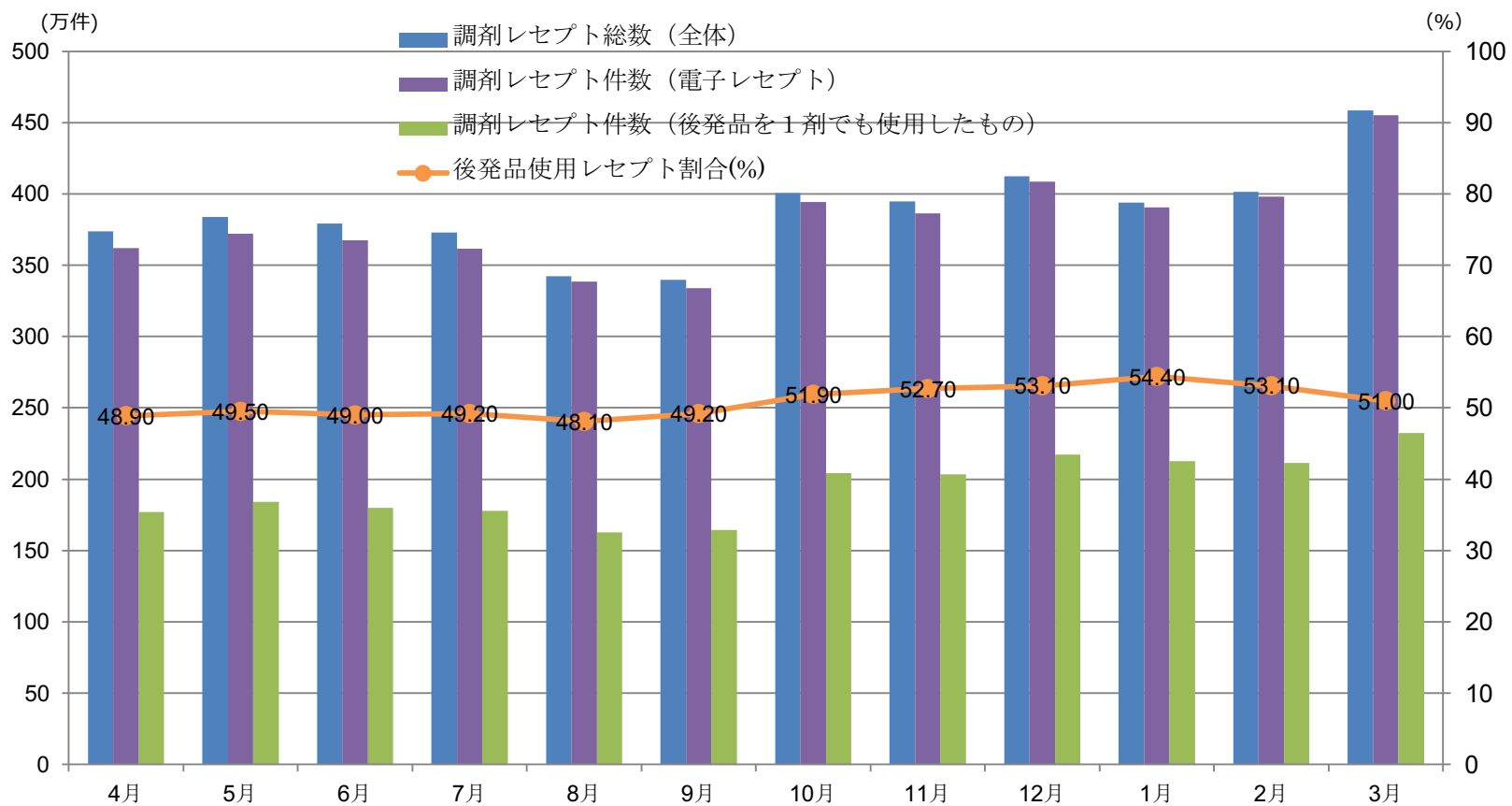


薬剤料に占める後発医薬品の割合（金額ベース）



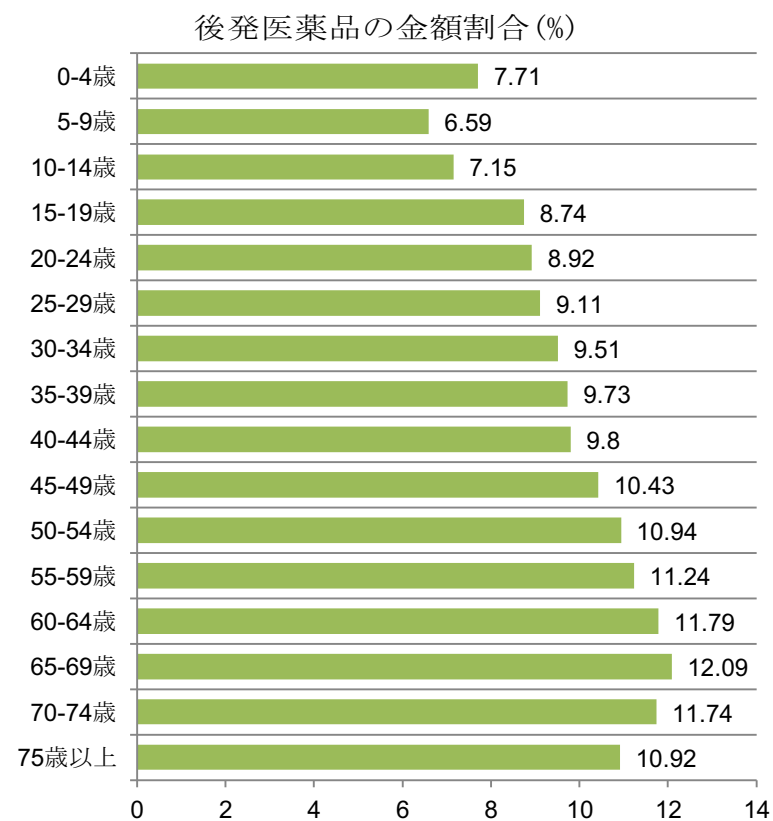
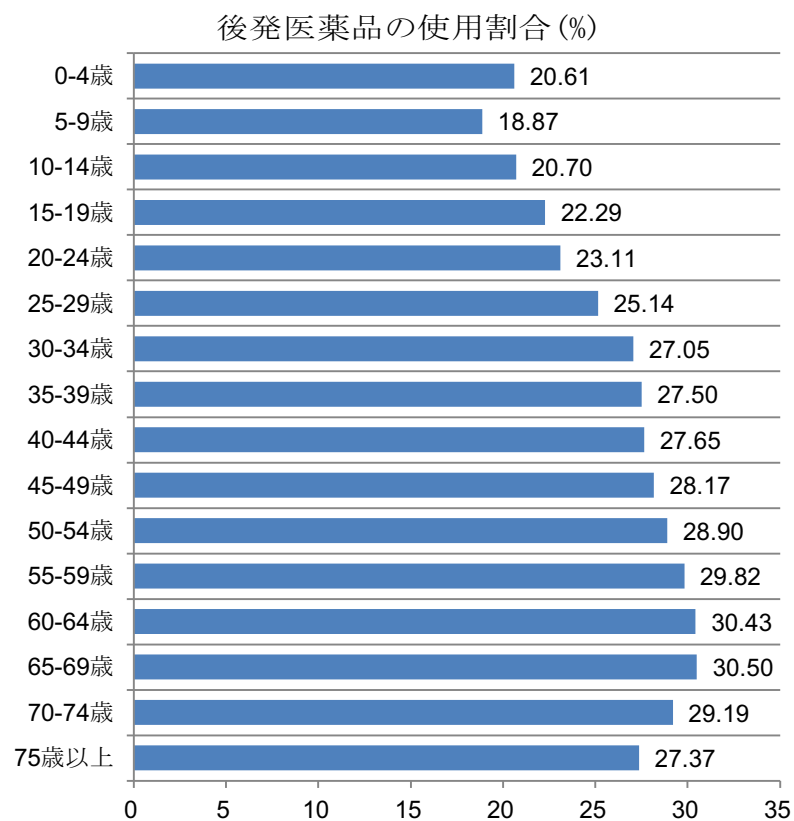
## 調剤レセプト件数の推移と後発医薬品の割合

- 調剤レセプト件数の月次推移をみると、300～400 万件で推移しているが、3 月は 450 万件を超えて最も多い月となっている。
- 調剤レセプト全体のうち、1 剤でも後発薬品を処方した割合は 48～54%で推移していることがわかる。



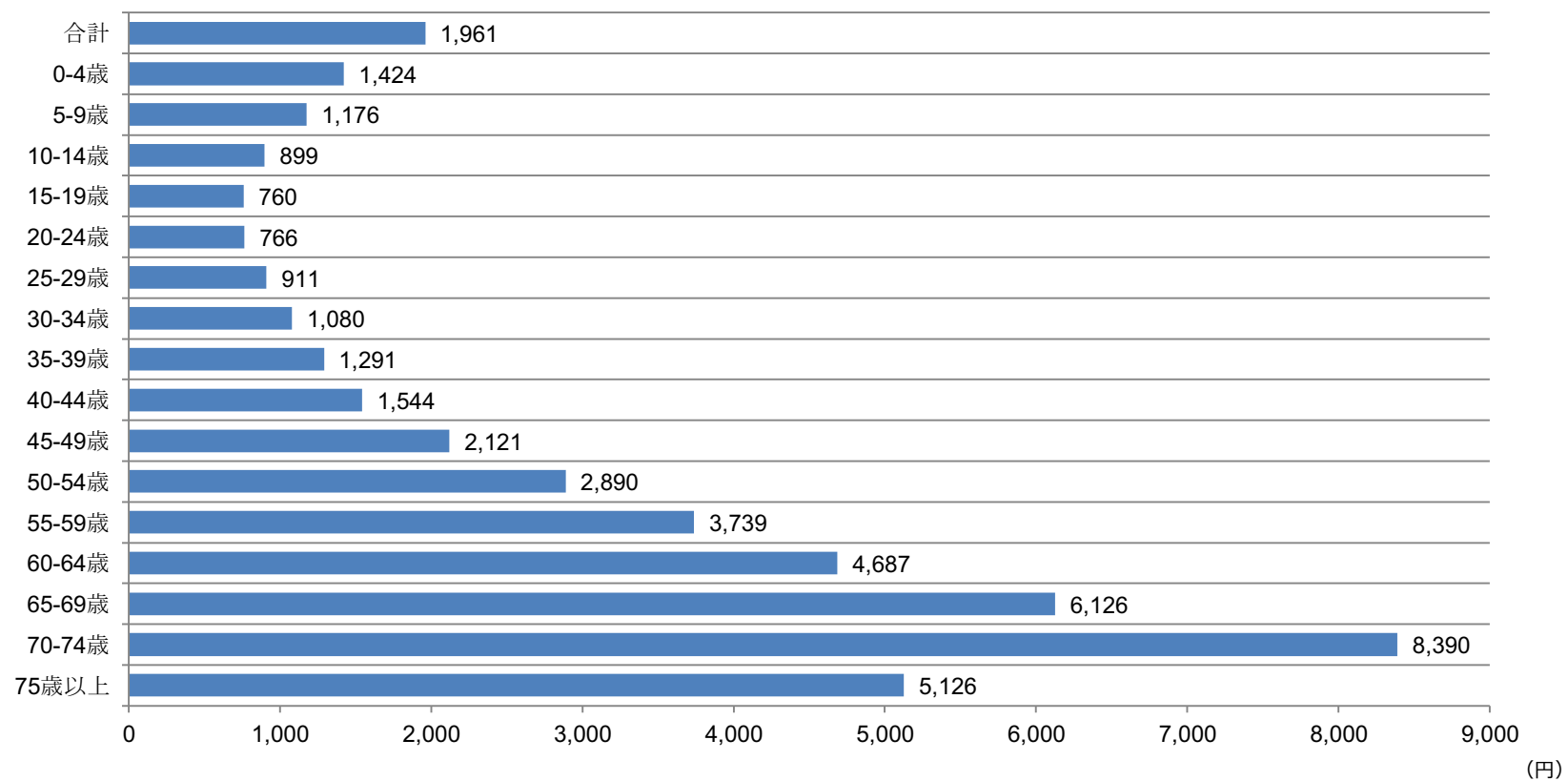
## 年齢階層別にみた後発医薬品の使用量、金額の割合

- 年齢階層別に後発医薬品の使用割合をみると、0-4歳の乳幼児でやや高いほか、概ね年齢階層が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。また、金額ベースの割合でも同様の傾向がみられる。



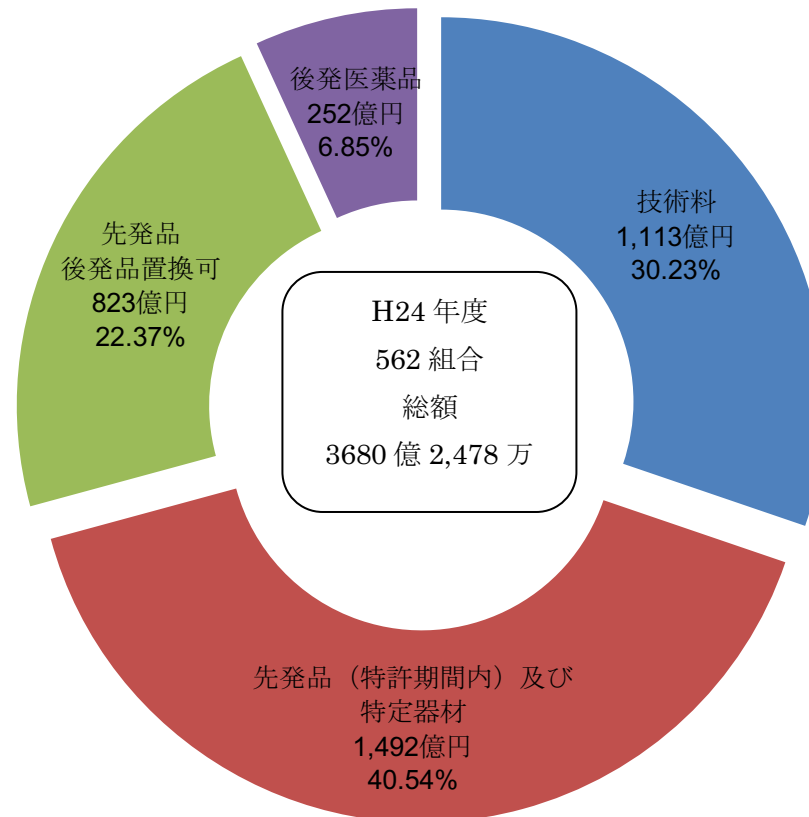
## 1人当たり後発医薬品金額

- 年齢階層別に後発医薬品の1人当たり金額をみると、平均：1,961円となっており、①70-74歳：8,390円、②65-69歳：6,126円、③75歳以上：5,126円の順に高く、高齢者で高い傾向にある。



## 調剤医療費に占める代替可能な先発品の割合

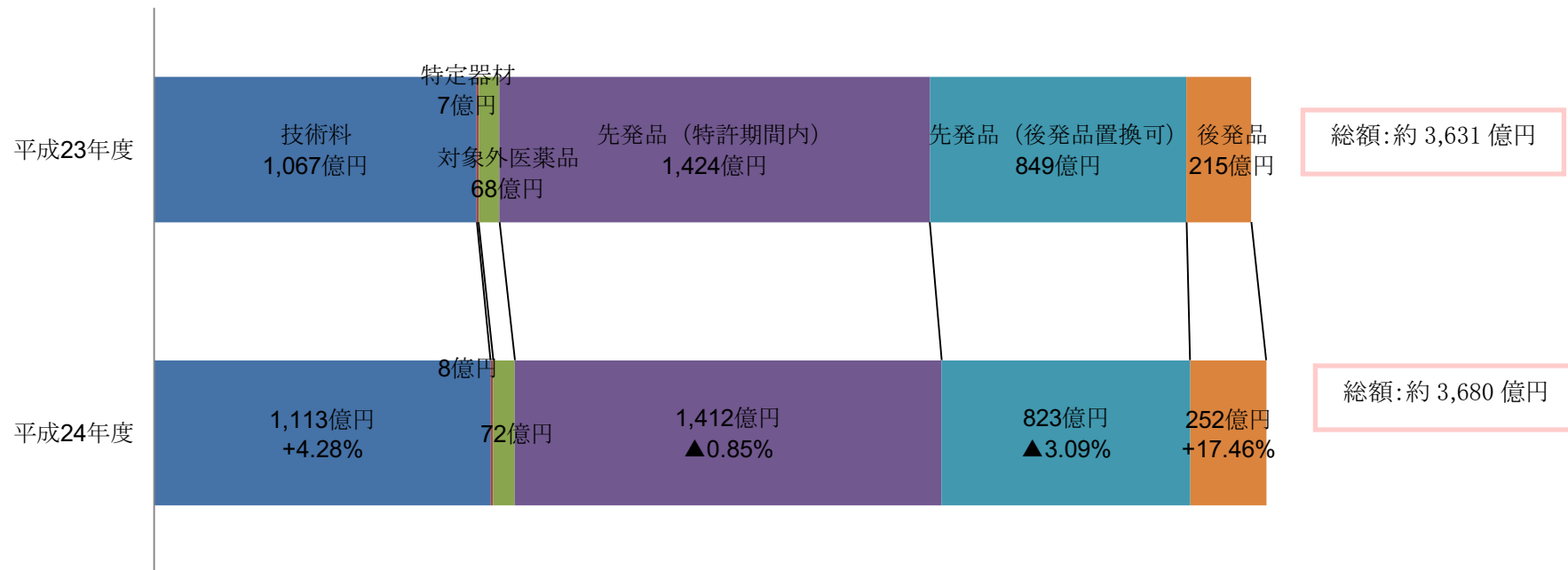
- 円グラフは、薬剤費（技術料を含む）に占める後発医薬品に代替可能な先発品の金額・割合を示したものである。薬剤費全体で先発医薬品は 62.91%（40.54%+22.37%）となっているが、そのうち 22.37%に当たる 823 億円の先発医薬品が後発医薬品への代替が可能な薬剤となっている。





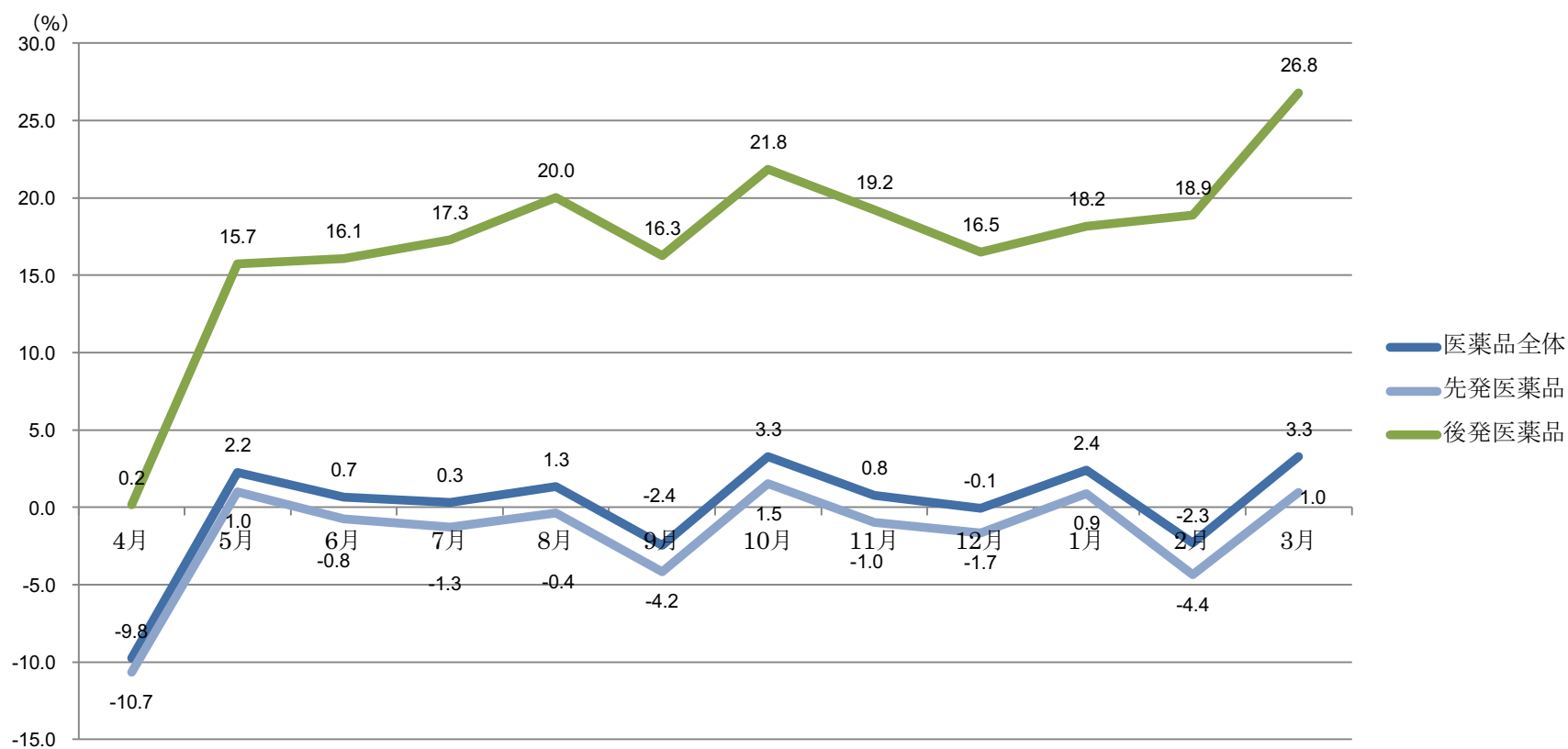
## 調剤医療費の内訳と伸び率

- グラフは、平成 23 年度と 24 年度の調剤医療費の金額ベースの内訳を比較したものである。平成 24 年度の調剤医療費総額 3,680 億円の主な内訳をみると、①技術料：1,113 億円 (+4.28%)、②先発医薬品（特許期間内）：1,412 億円 (▲0.85%)、③先発医薬品（後発医薬品に置換可能）：823 億 (▲3.09%)、④後発医薬品：252 億円 (+17.46%) となっており、金額規模は小さいものの、後発医薬品の伸び率が大きいことがわかる。



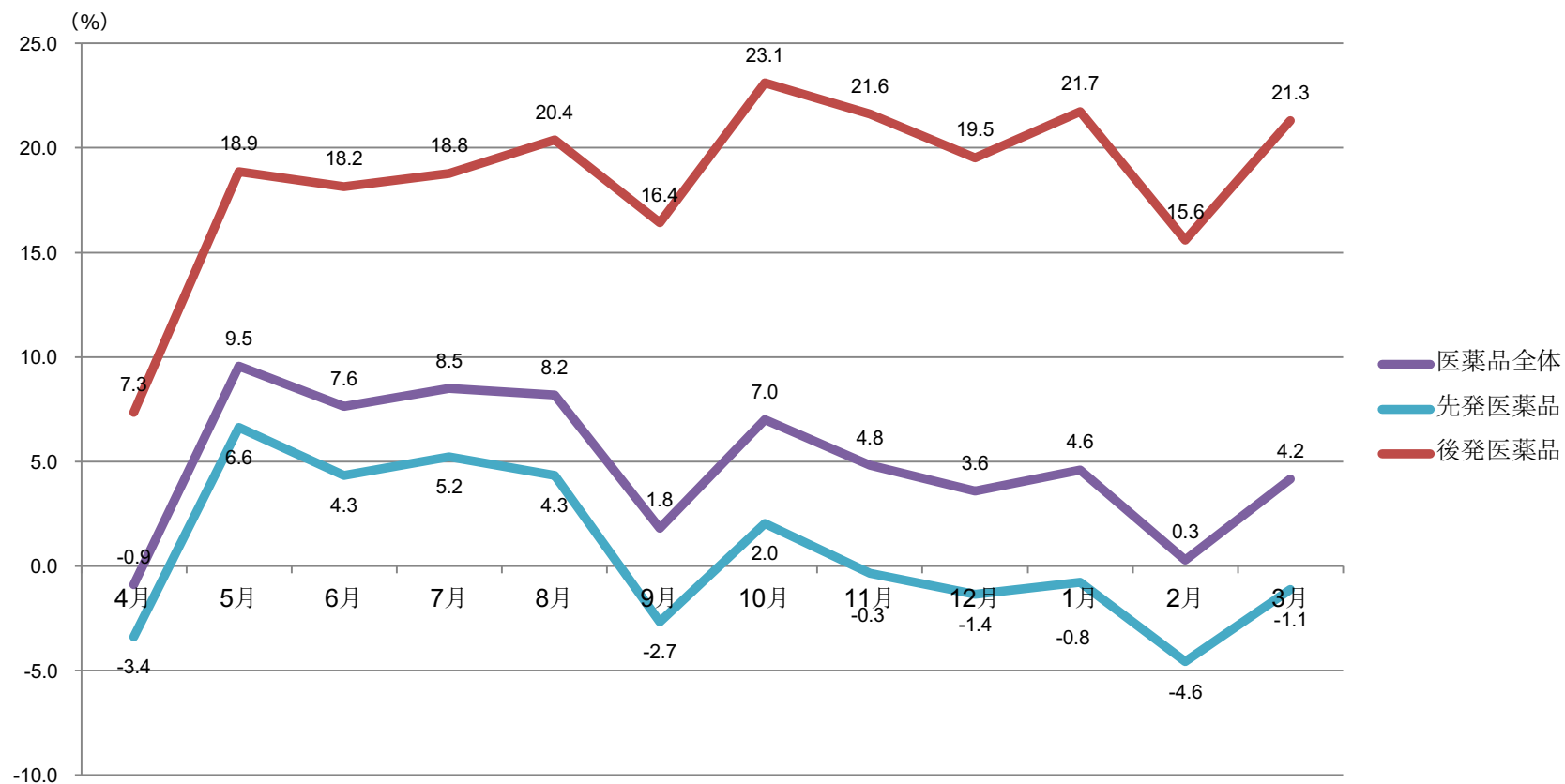
## 薬剤費の伸び率（内訳）の月別推移（金額ベース）

- 折れ線グラフは、薬剤費の対前年同期比伸び率の月別推移を示したものである。とくに後発薬品の伸び率が高く、①3月：26.8%、②10月：21.8%、③8月：20.0%となっている。



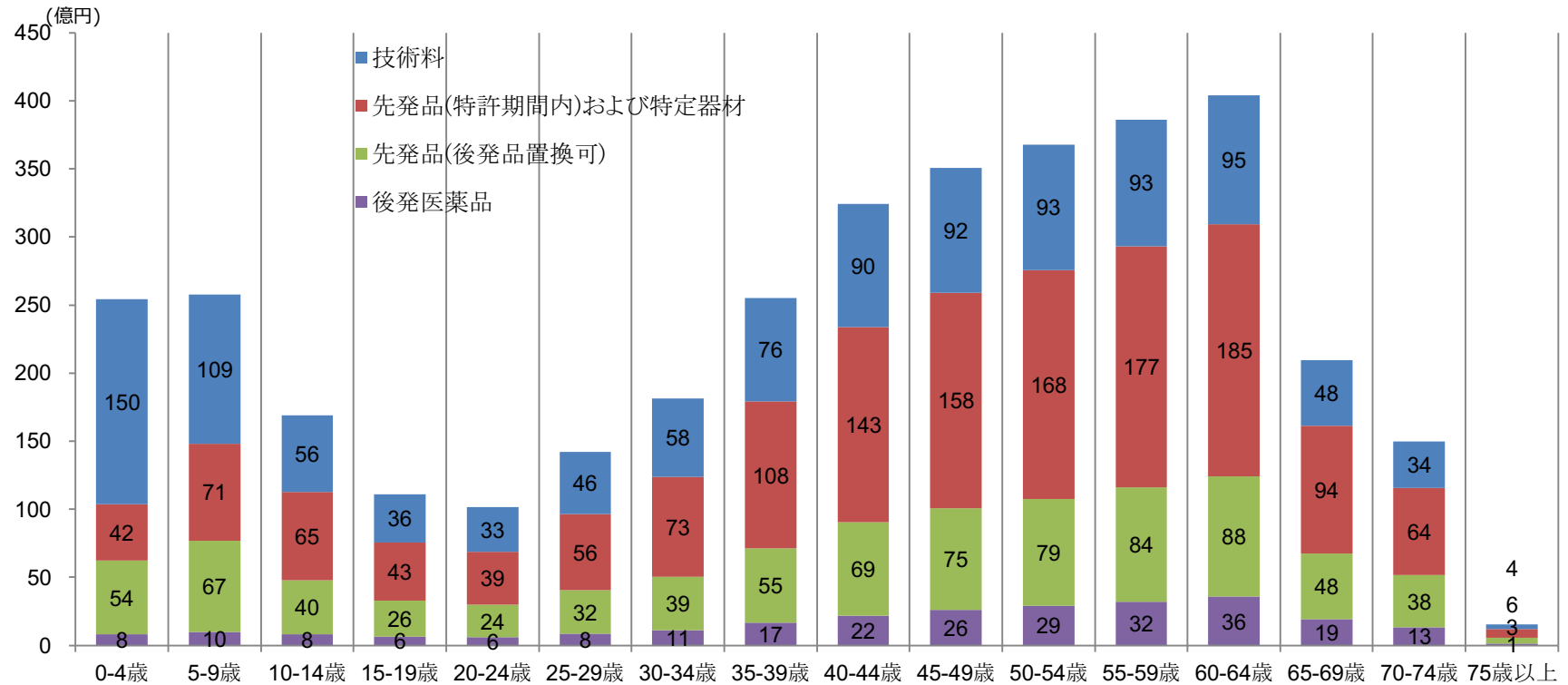
## 薬剤費使用量の伸び率（内訳）の月別推移（数量ベース）

- 折れ線グラフは、薬剤費使用量の対前年同期比伸び率の月別推移を示したものである。使用量についても後発薬品の伸び率が高く、①10月：23.1%、②1月：21.7%、③11月：21.6%となっている。



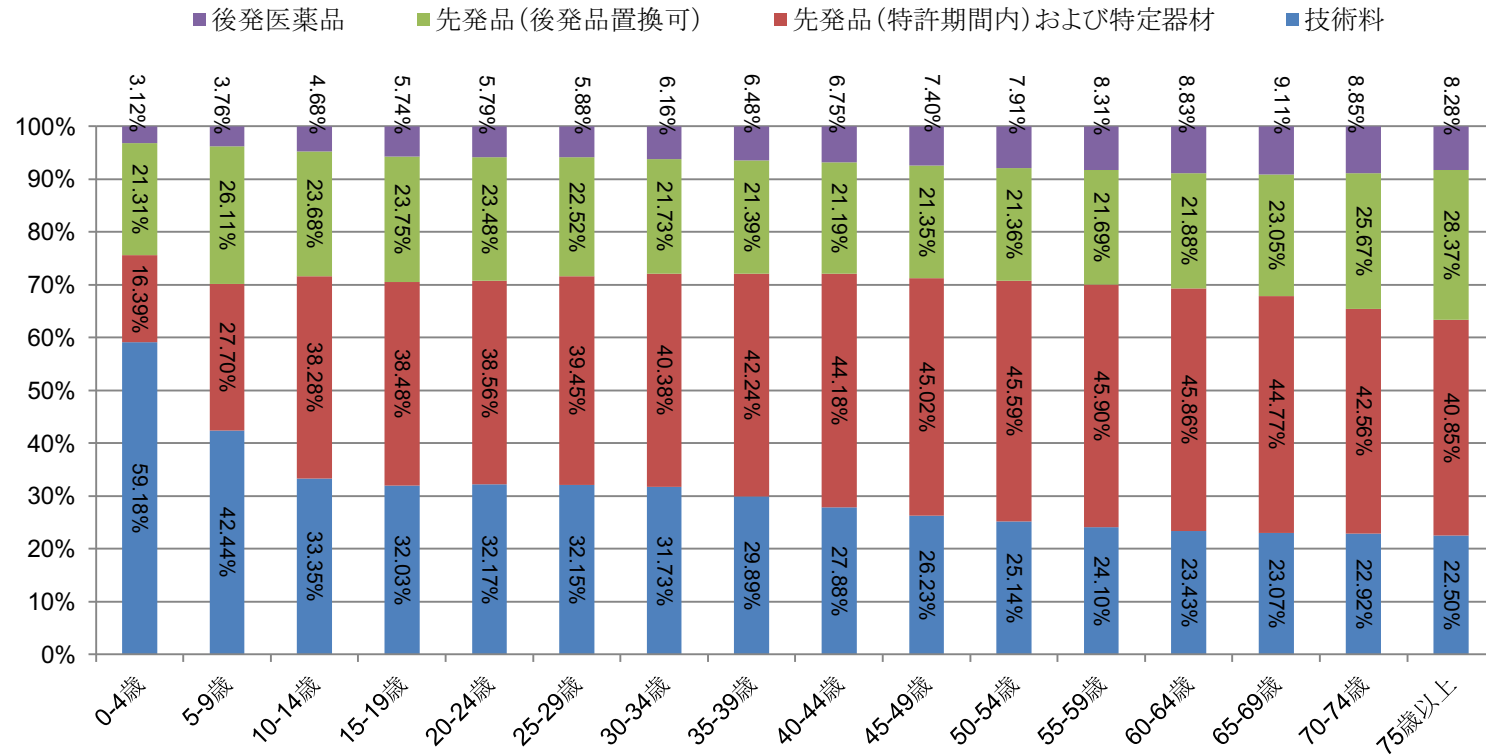
## 年齢階層別にみた調剤医療費の内訳

- 年齢階層別に調剤医療費の内訳をみると、技術料■は0-4歳：150億円、5-9歳：109億円と9歳以下で大きな比重を占めている一方、65歳以上高齢者では低くなっている。
- 特許期間内の先発医薬品■は年齢階層が上がるにつれて大きな比重を占めている。
- 後発医薬品に置き換え可能な先発医薬品■及び後発医薬品■は年齢階層が上がるにつれて若干、増加している。



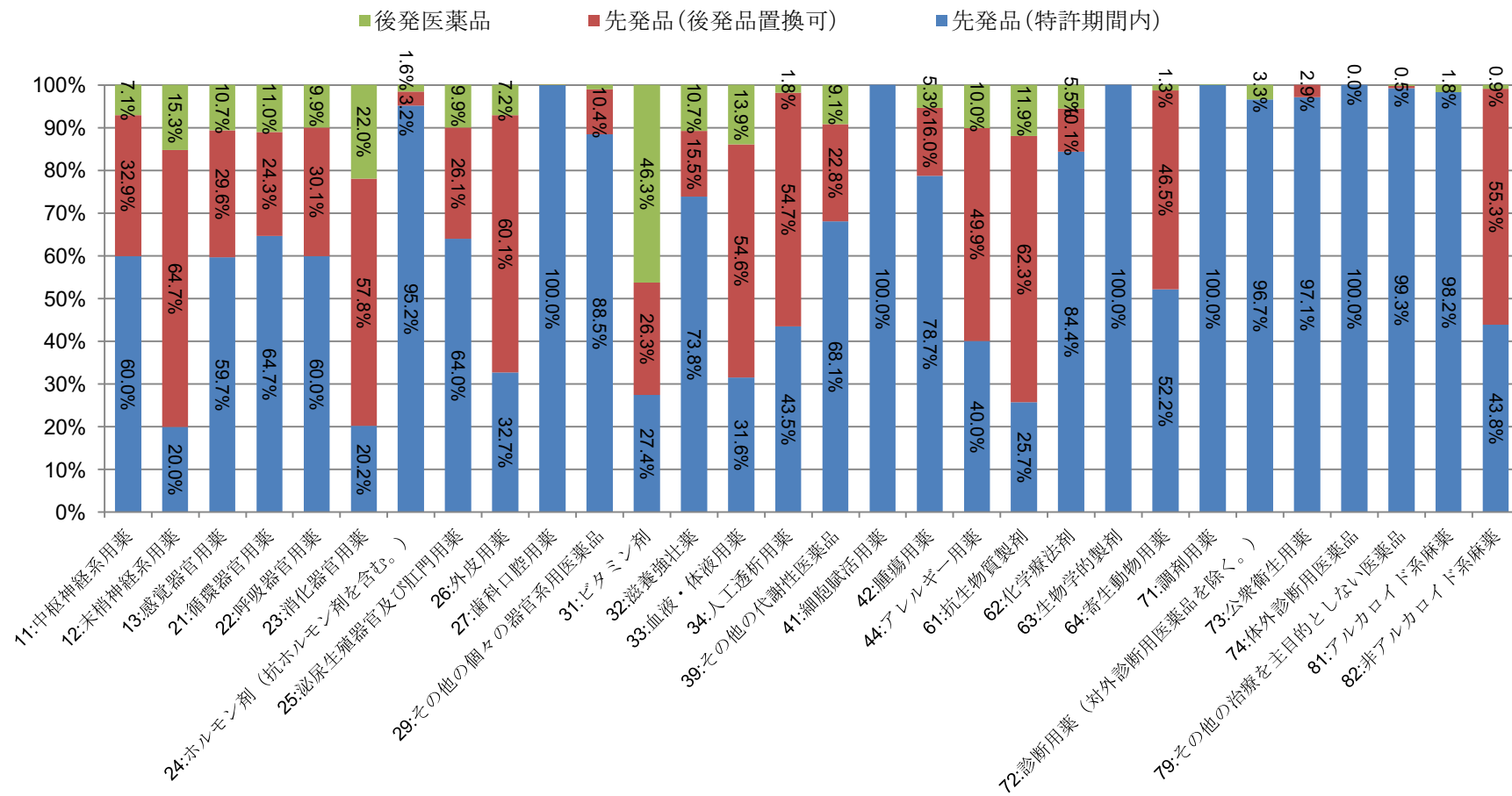
## 年齢階層別にみた調剤医療費の内訳（割合）

- 年齢階層別に調剤医療費の内訳割合をみると、技術料■は年齢階層が上がるにつれ低くなり、先発医薬品（特許期間内）■は逆に年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にある。
- 後発医薬品に置き換え可能な先発医薬品■及び後発医薬品■は年齢階層が上がるにつれて若干、高くなっている。



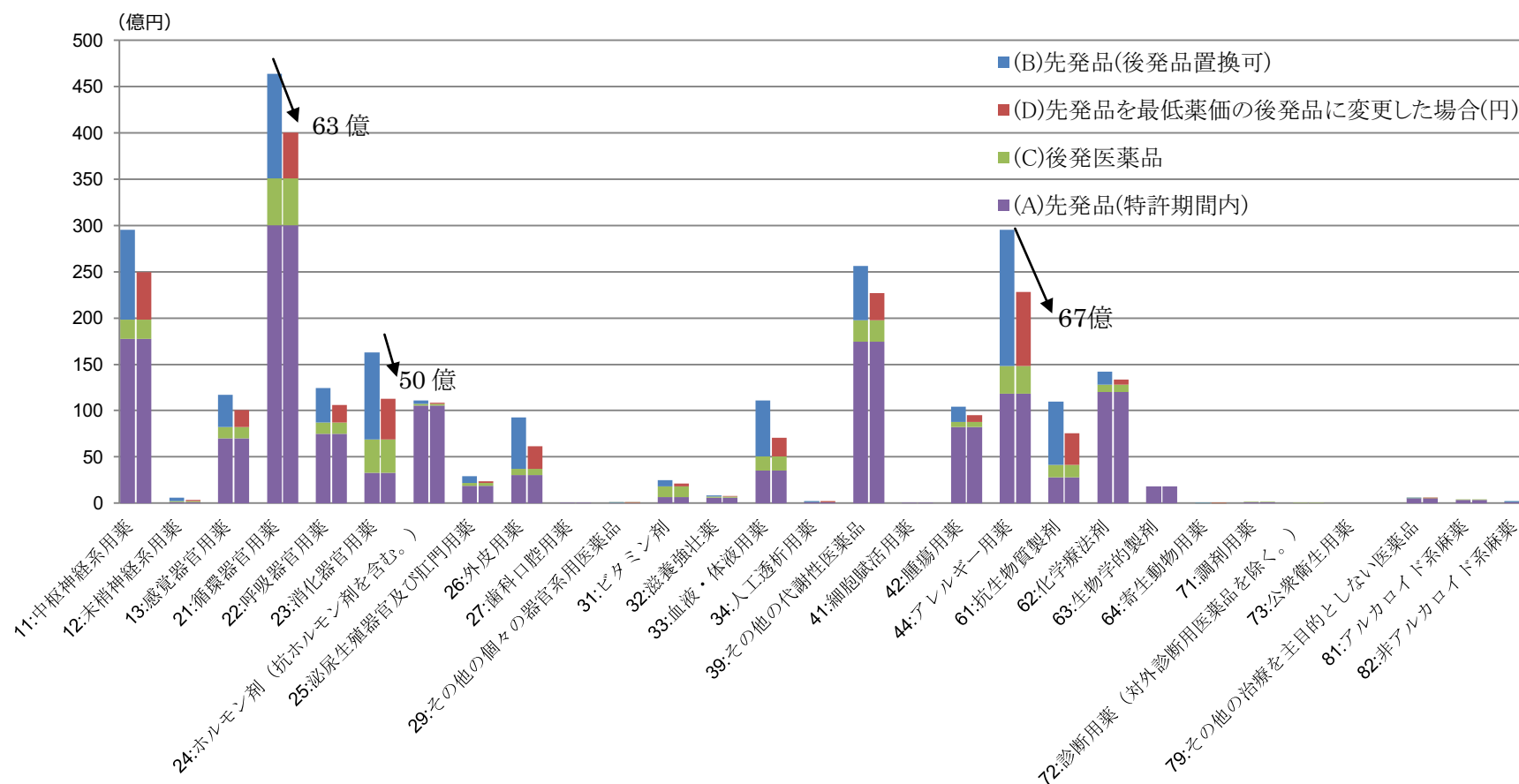
## 薬効分類（2桁）別にみた後発医薬品の割合

- 薬効分類別に後発医薬品に代替可能な先発医薬品 ■ の割合（金額ベース）をみると、①末梢神経系用薬：64.7%、②抗生物質製剤：62.3%、③外皮用薬：60.1%の順に高い。一方、後発医薬品 ■ の割合が高いのは、①ビタミン剤：46.3%、②消化器官用剤：22.0%、③末梢神経系用薬：15.3%となっている。



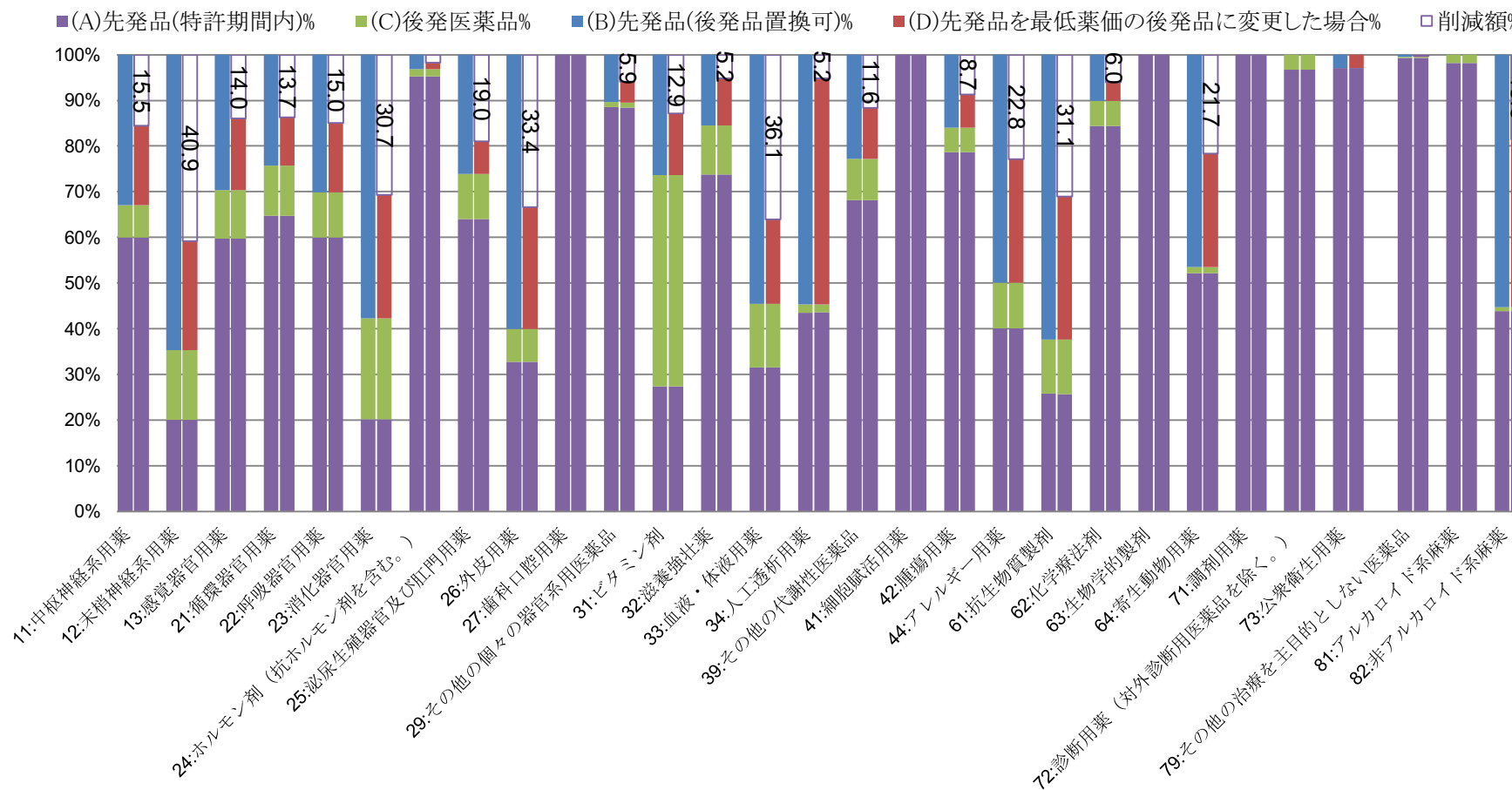
## 薬効分類（2桁）別後発品代替効果（粗い試算）

- グラフは、薬効分類別に、左に現状、右に後発医薬品に代替可能な先発品を最低価格の後発品■に置き換えた場合の金額を示している。このなかで削減金額が大きいのは、①アレルギー用薬：67億円、②循環器官用薬：63億円、③消化器官用薬：50億円となっている。



## 薬効分類（2桁）別削減率（粗い試算）

- グラフは、後発医薬品に代替可能な先発医薬品を最低価格に置き換えた場合■の削減率を示したものである。
- 削減率が高いのは、①末梢神経系用薬：40.9%、②血液・体液用薬：36.1%、③外皮用薬：33.4%となっている。





参考：薬効分類別にみた削減額及び削減率（粗い試算）

薬効分類	(A)現状薬価(円)	(B)先発品を最低薬価の後発品にシフトした場合(円)	削減額(円)(A)-(B)	変更削減率(%)
11:中枢神経系用薬	29,562,332,161	24,973,523,191	4,588,808,970	15.50
12:末梢神経系用薬	578,660,322	342,265,413	236,394,909	40.90
13:感覚器官用薬	11,719,847,800	10,078,370,973	1,641,476,827	14.00
21:循環器官用薬	46,382,713,224	40,038,235,554	6,344,477,670	13.70
22:呼吸器官用薬	12,456,020,134	10,589,257,550	1,866,762,584	15.00
23:消化器官用薬	16,274,602,553	11,273,539,473	5,001,063,080	30.70
24:ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)	11,068,215,692	10,866,634,306	201,581,386	1.80
25:泌尿生殖器官及び肛門用薬	2,938,052,377	2,380,922,757	557,129,620	19.00
26:外皮用薬	9,262,425,269	6,164,344,202	3,098,081,067	33.40
27:歯科口腔用薬	12,515,878	12,515,436	442	0.00
29:その他の個々の器官系用医薬品	46,983,756	44,219,736	2,764,020	5.90
31:ビタミン剤	2,459,077,123	2,141,208,061	317,869,062	12.90
32:滋養強壯薬	828,087,883	784,952,041	43,135,842	5.20
33:血液・体液用薬	11,094,133,202	7,087,783,064	4,006,350,138	36.10
34:人工透析用薬	242,541,912	229,809,360	12,732,552	5.20
39:その他の代謝性医薬品	25,628,066,454	22,666,639,651	2,961,426,803	11.60
41:細胞賦活用薬	1,009,002	1,009,002	0	0.00
42:腫瘍用薬	10,445,956,620	9,532,313,686	913,642,934	8.70
44:アレルギー用薬	29,540,132,693	22,804,276,917	6,735,855,776	22.80

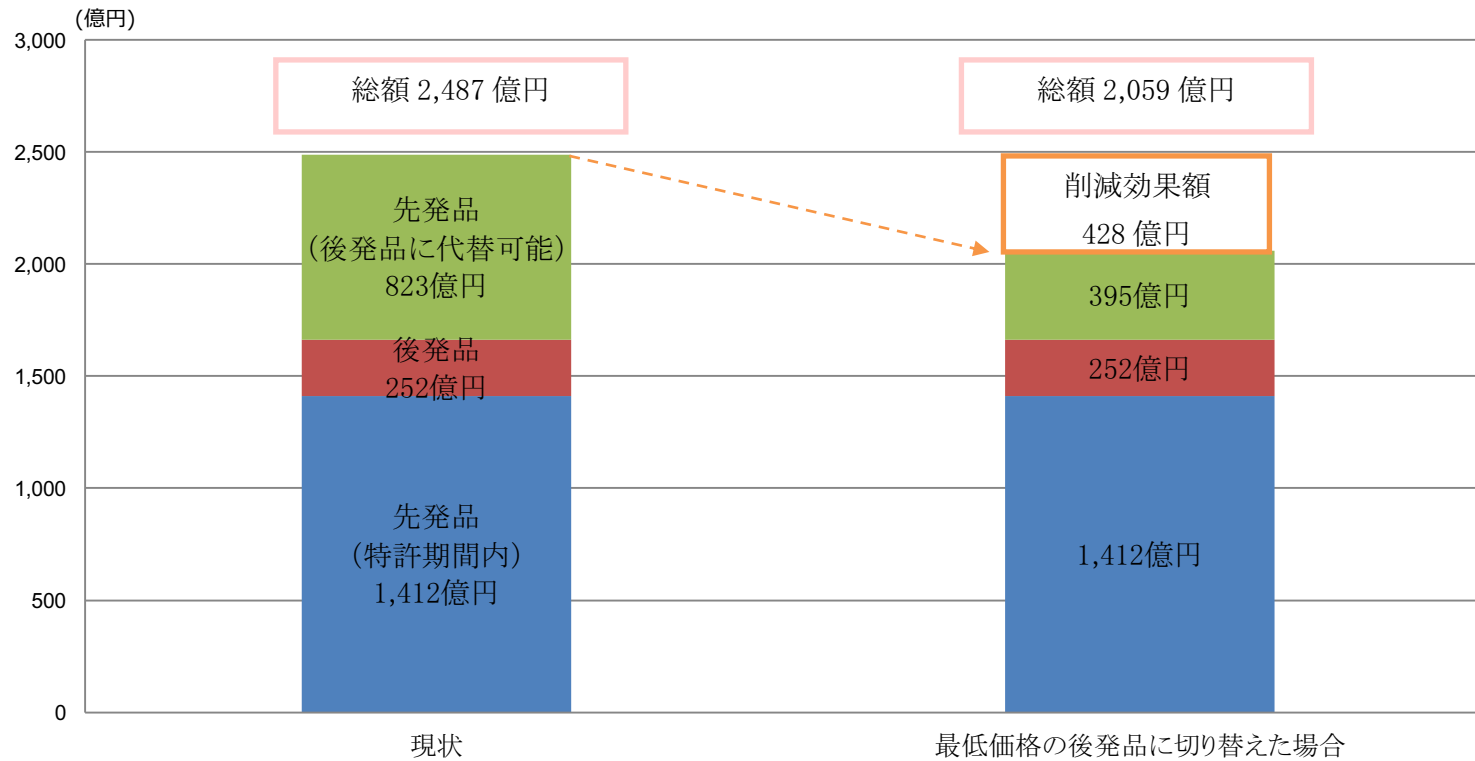
(続き)

薬効分類	(A)現状薬価(円)	(B)先発品を最低薬価の後発品にシフトした場合(円)	削減額(円)(A)-(B)	変更削減率(%)
61:抗生物質製剤	10,964,694,311	7,558,392,609	3,406,301,702	31.10
62:化学療法剤	14,235,480,826	13,381,595,328	853,885,498	6.00
63:生物学的製剤	1,800,944,826	1,800,944,826	0	0.00
64:寄生動物用薬	17,905,833	14,024,367	3,881,466	21.70
71:調剤用薬	90,997,037	90,997,037	0	0.00
72:診断用薬(対外診断用医薬品を除く。)	5,212,942	5,212,942	0	0.00
73:公衆衛生用薬	5,158	5,158	0	0.00
74:体外診断用医薬品	83	83	0	0.00
79:その他治療を主目的としない医薬品	517,332,142	515,704,642	1,627,500	0.30
81:アルカロイド系麻薬	377,427,037	377,427,037	0	0.00
82:非アルカロイド系麻薬	201,422,680	164,205,999	37,216,681	18.50
合計	248,752,796,931	205,920,330,402	42,832,466,529	17.20

## 後発医薬品に代替した場合の削減額（粗い試算）

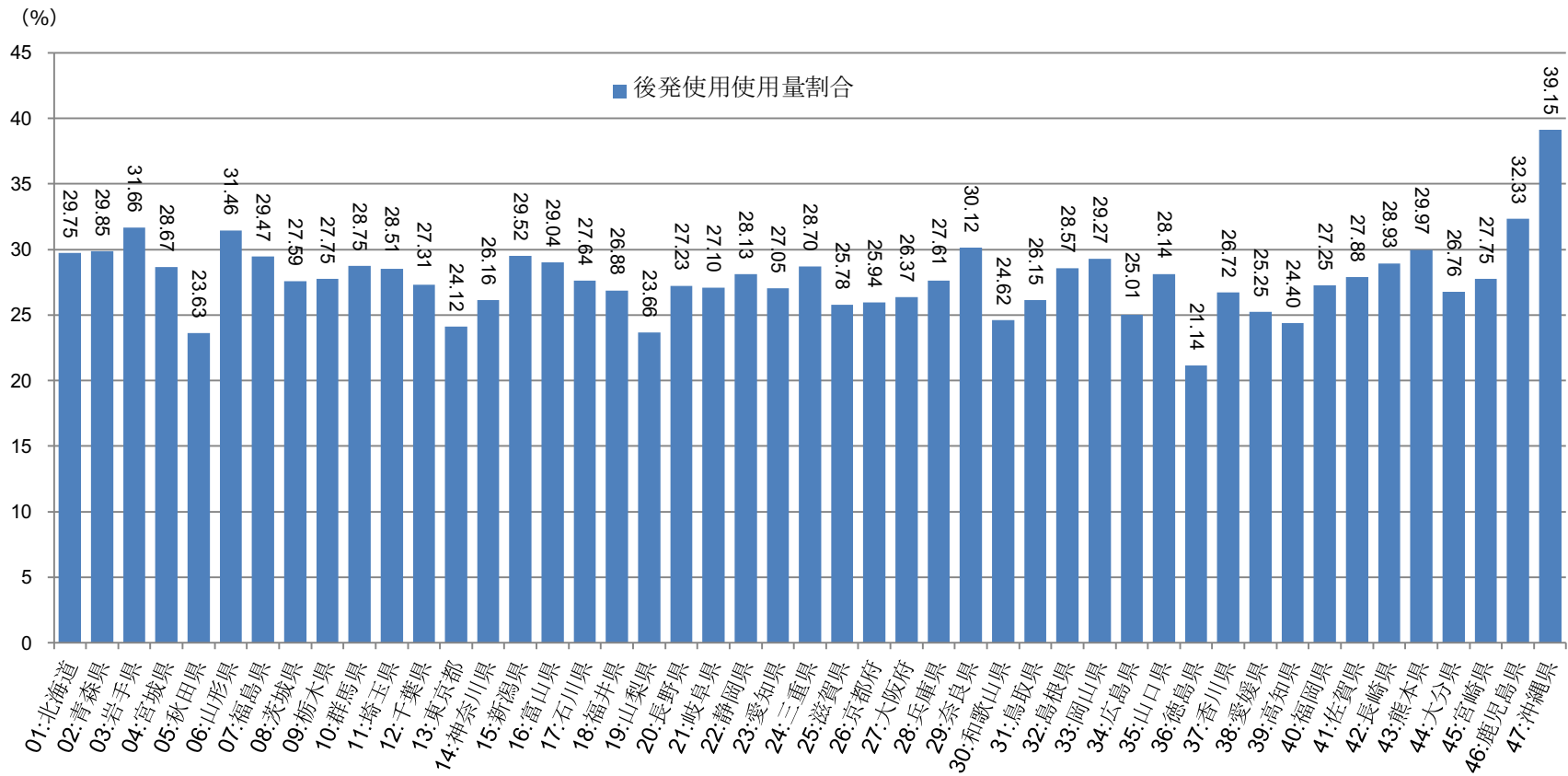
- 医薬品総額 2,487 億円のうち、仮に後発医薬品に代替可能な先発医薬品を最低価格の後発医薬品に置き換えた場合、削減効果は 428 億円で削減率は 17.21%となる。

※ 現在、使用中の先発医薬品・後発医薬品を、最低価格の後発医薬品に置き換えた場合の粗い試算であり、①後発医薬品のない先発医薬品（特許が切れていない先発医薬品）、②後発医薬品の最低価格が先発医薬品より高額なものについては集計の対象としていない。



## 都道府県別にみた後発医薬品の使用割合

- 都道府県別に後発医薬品の使用割合をみると、①沖縄県：39.15%、②鹿児島県：32.33%、③岩手県：31.66%の順に高く、一方、使用割合が低いのは、①徳島県：21.14%、②秋田県：23.63%、③山梨県：23.66%となっている。



## 都道府県別にみた後発医薬品の金額割合

- 都道府県別に後発医薬品の金額割合をみると、①沖縄県：13.72%、②奈良県：13.60%、③岩手県：13.21%-の順に高く、一方、金額割合が低いのは、①徳島県：7.14%、②山梨県：8.26%、③高知県：8.40%-となっている。

